



ミクロネシア連邦訪問 2015年9月17日発9月25日帰国 第67次訪問団
紀行記(2/3)



20日/第4日目 ポンペイの日常に溶け込む・・・朝は蜂蜜と相場が決まった

今日は、日曜日。教会の風景を見ようと出かけました。ウー地区の協会を訪問。教会に着いたのが11:00前であったためにミサの場面は、見る事が出来ませんでした。



その余韻は、十分あり、きれいに着飾った女性達や子供達に出会いました。



真珠養殖指導をしていた伊藤さんの養殖試験場跡です



その手前は、写真のようなピクニックにも良い広い場所があります。銘々に家

日曜の協会の後の時間帯はどのように過ごしているのか、その一例になるだろうと日本では海水浴リゾートのイメージとなる地域=ネットポイントに行くこととしました。その地域の先端には、かつて





族ごとや親類も集い、バーベキュー等で楽しんでいます。



私達の昼食は、SEIさんのところでカレーライスを食べることとなり、早速訪問。中に入って、変わったところは壁の色が、ブルーから白に塗りかえられていました。盛(SEI)さんと情報交換に

なりました。話が色々と豊富でしたが、盛さんの3人の兄の中ですぐ上の甲子郎さんは、戦艦大和に乗船していて戦死をされていたことが分かったとの事です……。ポンペイペッパーの予約をして店を出ました。

今日は、夕方頃合いの良い時分に釣りをしようとなっ



いて、16:00頃からPCR



ホテルの棧橋付近で糸を垂れることにしました。仕掛けは、方子さんの仕掛けを使わせてもらい、エサに烏賊の短冊切にしたもので、白い短冊が水の中をひらひらと舞うと魚が



惹きつけられるとの算段のものを使いました。結果は、結構釣れて、小さいものとやや大きめのものが釣れました。残念ながら名前を忘れましたが、小物の魚はから揚げにして、大きめのものは塩焼きにして、我々含めPCRの従業員の人達にもお裾分けできた釣果でありました。



この魚の他に霞アジの刺身が提供されました。この魚の釣り人は、月に2週間はPCRの隣に家を建ててまで、ポンペイに通ってくる“高橋社長”です。現役の社長ですが、部下や息子に仕事を任せて、時折決済する為に帰国するサイクルで、ポンペイに滞在です。裸一貫で仕上げた事業ですが、その分自分の考えを否定されると酒癖が悪くなる、最も最近はその前に切り上げて、部屋に帰っての“独酌”との事。



社長が釣りあげた魚



私達が釣りあげた魚

明日は、AMDミクロネシア連邦支部の運営委員会開催です。

AMD総会確認のAMD(組織図)をご参照下さい

一日の無事を感謝。

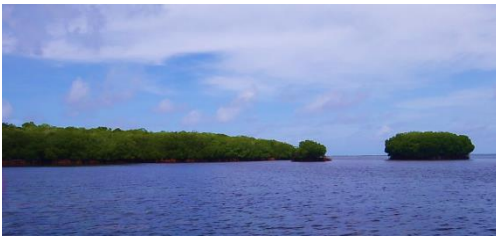


21日 第5日目 AMD-FSMのメンバーとの各種打合せの日 マングローブ探検

遅い朝食を摂る。今日もヨーロッパスタイルのパン食で“リンデンの蜂蜜”付けつつ、今日の予定を確認。



櫻井&岩崎さんは、高橋社長のご厚意もあり、マングローブ探検と釣りに出かけることとなりました。ゆったりとした時間と風を楽しみつつ、釣り糸を流し、午後14:00過ぎまでマイクロネシアタイムを満喫したようです。あとは昼寝・・・・・・・・



川嶋事務局長は、マイクロAMDメンバーとの諸打合せです。午前



は、秋永拓郎さんとコスラエのマイクロ水力発電機に関する打合せを行いました。又秋永好二さんと藤田和裕さん



とは、支部運営委員会の中で、“ジュニア(15-16歳)野球交流”の日本での交流について協議を行い、具体的には来年の3月下旬か



ら4月の初旬にかけて、日本国内のジュニア野球交流を行うべく取り組んでいくことを決めました。訪問団帰国直後に開催される9月26日の日本サイドの理事会に提案することとしました。



因みに、本年の3月14日～15日に開催された東アジア少年野球大会フェスティバル in 恩納村でのマイクロネシア連邦ポンペイ野球チームは下記の戦績となっていて来年に向けての練習に励んでいます。理事会報告(第113回議事録参照)の文面を再掲します。



＜東アジア少年野球大会フェスティバル in 恩納村, 3月14日(土)～15日(日), 沖縄県赤間球場で開催されました。ミクロネシア連邦から野球チームが参加。N GO-F SM ジュニアベース アソシエーションの育成チームです。会長 Mr アレックス、監督・Mr 秋永好二、コーチ Mr 藤田和裕、コーチ Mr ケニー。戦績は2勝2敗だがその内容に多くの関係者が驚いた。速成チームであるが、監督以下コーチの指導のもと、礼儀をはじめ道具を大切に作る心、チームワークの大切さなど指導。

勿論、技術やルールなど厳しく指導をしてきました。結果は、昨年度世界チャンピオンチーム：宜野湾ポニーの1年生チームと8対1の勝利。ベトナムチームとは6対1の勝利など、参加チームや大会運営者の注目も浴びました＞



夕食は、今日も刺身で舌鼓を打ちながら、歓談です。岩崎・桜井チームのマンダローブ探検は、こんがり焼けた顔と刺身用の魚が釣れたのが成果です。勿論マンダローブの中を抜ける体験の素晴らしさを大いに語って止まないお二人でした。ポンペイ最後の夜の夜会。満足満足・感謝感謝の就寝タイムになりました。



22日 6日目 チュークに移動 その前に土産を買いに行く

朝食は、今日もヨーロピアンスタイルのパン食。“菩提樹/リンデンの蜂蜜”が欠かせないものとなってしまいました。岩崎さんと桜井さんには自宅へ届けることになりそうです。

SEIさんの店で胡椒を買う。桜井さんはシエレをヨシエストアにて買い入れるつもりが売り切れて断念。(空港に向かう途中で、好二さんの知り合いの店で手に入れて、にっこりです)



チューク空港のロビー 夫々の家族の出発を見送る人たち

やはり、旅立ちは名残惜しい場面です。雄三さんから郵便物(9月26日14:30投函)をお預かりする等、再会を約しての出発です。七年前の医療ジェットの帰還が嘘のようです。車椅子の移動にすっかり慣れ、スムーズに搭乗が進んで、機内へ。 定刻で出発、離陸して間もなく、下に真珠





の養殖をしているというパッキン環礁・小さな島の上空を通り過ぎて、一路チューク州モエン島へ。



ポンペイ島の環礁の内側に停泊する船



パッキン環礁

チューク州モエン島（旧称 春島）



空港に着くと車椅子も段取りされていて、すっかり助けられました。「障害者がそこにいるから受け留めてフォローする、気に掛ける」よりもっと自然に支えがあります。

空港で Blue Lagoon Risort 迎への車に乗り、ホテルへ。空港周辺の道路は整備されたのですが、その道路も空港から数百メートルは舗装され、下水溝も一応整った形に





なっています。けれども、それ以外は相変わらずの凸凹状態、前回より更にひどい状況です。

このメイン道路から外れると昔ながらの道事情で困難さはないようです。このメイン道路は、下水含めての整備する為、一度全て掘り起し、下水中継マンホールなど要所要所に建設すべく工事が開始されたのです。下水整備には、水道管敷設や通信ケーブル等の配管も計画されているよう



す。けれども、工事期間が長くなり資金ショートをしてしまい、工事中断のまま放置状態となっていました。今回は、何らかの工事再開の作業が、重機持込みも確認できましたが、迅速に工事が進むとは見え

ず、FSM最大の人口有するチューク州・州都モエン島の



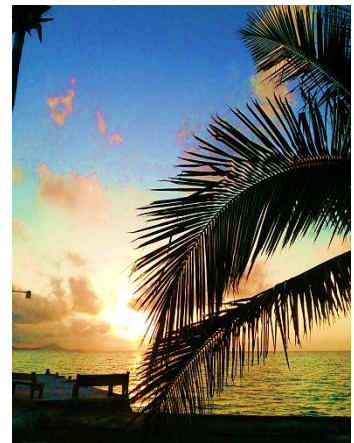
中心部がこの有様です。

道路の水たまりは、川と表現する人、湖と言う人、プールと叫んだ人、これらの人々は全てチュークの人達です。大統領を輩出した州、今回は副大統領を輩出した州、このチューク環礁内のある島々は独立を求めている、この混乱は、チュークのみならず、この国の将来の為にも、早く納めないといけません。当AMDは、この地からスタートでした。理想に燃える政治家もいましたが、今はいません。閑話休題



大揺れの車に揺られて、Blue Lagoon Risort に到着です。Blue Lagoon Risort の敷地に入ると別天地です。夫々の部屋に入り荷物を解きました。

この日の夕陽は、最高でした。3度目の訪問になる岩崎さんは、来た甲斐があったと“素晴らしい”と連発です。岩崎さんは、桜井さんの元上司であり、竹中工務店時代の人間関係です。岩崎さんが最初にFSMに来られたのは7年前でした。8名ほどのメン



バーでした。その記憶が、ミクロネシア連邦へ繋がってきたと言われています。当時は、夜中に金縛りを経験され、般若心経を唱えた一晚もあったとのこと。当時は、私自身も似たような経験をしてきました。戦地となったこの島々の戦没者との交わりであったと理解しています。このNPO活動の原動力の一つはその辺にあると得心しています。



夕陽を見ながら、庭のカウンターバーで早速ビール。その内に Mr. Gradvin が合流。桜井さんを元気ですかと励まし、岩崎さんとは久しぶりの出会いの握手。今回の来意は伝えてあります。



夕食は、共にビッグステーキ、桜井さんはペッパーステーキのやや小ぶりのもの、岩崎さんと川嶋は、彼と同じサイズ。ステーキ肉と格闘の未完食。彼の事業の話やチュークの政治状況の話、彼のお父さんのメモリアル・記念館の事、等々、あっという間に時間も過ぎました。



彼からは、最終日の午前中、空港に行く前に夏島や小さい島々を見て・写真を撮り、小島で昼食のバーベキューを、との提案が出ました。当方からは、明日ザビエル高等学校訪問前に支援金を渡すことを伝え、終了となりました。

就寝

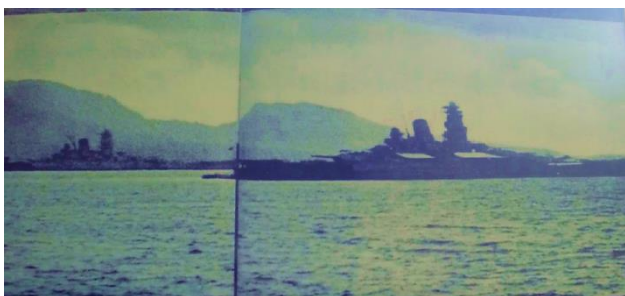
23日 7日目 メイサック支援機引き渡し
チューク州の水部門の責任者と水事業について
ゼイビヤ高等学校訪問 メール通信環境悪い

朝食 アメリカンブレイクファースト。川嶋は、同じレストランで、チューク州の水部門の責任者と朝飯会議、要請やらプロポーザルの確認などして終了。



その後、Mr. Gradvin が建設した父親の名前を冠した記念館を見学することとしました。館内は撮影禁止との事で、撮影は控えました。

日本時代の食器類や沈船から引き上げた品々があり、個人の為の記念館と言うより、F SMとしての大事な品々があります。興味を引いたのが、戦艦武蔵と大和が並んで映っている写真と1945年9月2日の写真と署名文書の展示です。戦争終結の調印式（東京湾



戦艦ミズーリー—艦上での降伏署名と同時に行われたチュークでの日米代表による署名の写真)の資料に目が行きました。前回川嶋が訪れた折に許可をもらって撮影したものがあ

ますのでご覧ください。

記念館見学の後、夫々の時間を過ごすことにしました。事務局長は、海岸近くにあるハンモックに1時間ほど揺られて朝寝。





今回の訪問目的の一つは、三月末のメイサック台風による被災者への支援金譲渡です。支援金(50万円*)は、Mr Gradvin AMD チュークブランチのチーフに手渡しました。彼からは早々に米を購入して、配賦の段取りを進めるとの返事を得ました。



*(50万円/\$換算4,055\$, レートは¥123.30[2015.09.17, 18:32] 50万円の換金に際してはつり銭が出ましたので、1ドルを加えての支援金\$4,056としました_)

Mr. Gradvin は、F S M-AMDのチュークブランチのチーフです。彼は、トノアス市長退任の後、事業に専念しています。思いは地域に大きく貢献する事。彼の事業でのチュークの人々の直雇用者は130名を超え、家族を含めると1,000名近くの生活を支えていることとなります。10数年前、今回を上回る台風災害が発生した時は、トノアス市長でありました。当時AMDは70万円の支援金を持参しました。全てコメの購入に充て、彼はその分配を陣頭指揮して、被災者への直接届けを全面的に背負って行ってくれました。当時、私達は、その配給現場に立ち会い、市議会議長から市民の前で感謝の言葉を受けたことが蘇ります。

レンタカーを借り、ザビエル高等学校へ、途中テレコム社に立寄りMr Mino Moriさん(AMDメンバー)をピックアップして、川・湖・プールの中をひたすら乗り越えたり泳いだりして、ザビエル高等学校の山の麓まで到着、この後が凸凹の山道を登り、漸く到着。ホテルから1時間半。 **ザビエル高校の門→**



ザビエル高等学校の山の麓まで到着、この後が凸凹の山道を登り、漸く到着。ホテルから1時間半。 **ザビエル高校の門→**



4月からシニアボランティア・日本語教師として来られている赤石さんとお会いしました。野村さんの後任、何年も待っていた日本語教師です。外務大臣のローリンさんからも合う度に言われていたことの一つが実現です。私達AMDとしても、関係者のご努力に感謝。



真中が懐かしのキアサとトーマス、赤石さん

夕食は、3人でミクロネシア最後の夕食を摂りました。メニューは、コンボ(日本の海苔巻と果物と野菜の組合せ)ワインとビール、桜井さんはアルコールは飲まず。岩崎さんと日本酒が飲みたいと思い、聞くとやはりない。今度は、持参するか・・・ 毎日21:00前には就寝

帰りも1時間半掛り、ブルーラグーンに到着

